

令和6年度 学習分析事業 課題改善シート 三原市立大和中学校

【別紙1】

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
1年	前年度結果 偏差値平均						
	本年度結果 偏差値平均	47.7	47.8	46	51	46.4	47.8
2年	前年度結果 偏差値平均	48.2	46.6	46.1	50.9	47.1	47.8
	本年度結果 偏差値平均	48.6	50	47.3	50.4	47	48.6
3年	前年度結果 偏差値平均	47.4	46.5	51.7	45.9	45.7	47.5
	本年度結果 偏差値平均	49.2	48.6	47.3	47.8	44.4	47.4
全体	前年度結果 偏差値平均	49.8	49.3	49.8	50.5	47.8	49.4
	本年度結果 偏差値平均	48.5	48.8	46.8	49.7	45.9	47.9

③全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	数学	英語
前年度結果 (対県比)	81 (+11.0)	60 (+11.0)	44 (+1.0)
本年度結果 (対県比)	54 (-4.1)	48 (-4.5)	

2 令和5年度について

①調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて) 国語：聞取りの内容理解(36%)学年別配当漢字(30%)物語の構成理解(24%)に課題があった。 社会：資料・材料費と生産、人件費の違い(全国通過率との差21%)工場建設に適した国(21%)徳川吉宗の政治(8%)に課題があった。 数学：分数の乗除法の性質(43%)、小数×小数(45%)、四分位範囲(39%)に課題があった。 理科：電気が通らない回路(1年13%)、質量パーセント濃度(2年18%)、オームの法則・抵抗(3年22%)、反応する酸堿の質量(3年33%)など、物質単元、エネルギー単元に課題がある。計算問題に課題があるともいえる。 英語：語の理解(1年28%)適語選択(2年19%)適語補充(3年22%)に課題があった。 【共通】 ○語句の暗記、計算などの知識技能に関わる基本的な問題ができていない生徒がいる。 ○記述問題で無回答の生徒がいる。	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて) ●国語では、レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する問題(58.8%、全国比+4.5%)で「～ため」という表現が理由を強調するために使用されていることを読み取れない生徒が、他の問題と比較して多くいた。 ●数学では、四分位範囲(58.8%、全国比－6.9%)を求める問題で範囲を求めている生徒が多くいた。また、図形の証明(23.5%、全国比－8.6%)では、根拠が不十分な生徒が多くいた。 ●英語では、英文を読み、適切な語句を選ぶ問題(47.1%、全国比-12.7%)で、文と文との関係を正確に読み取ることに課題があった。また、まとまりのある文章を書く問題(2.9%、-4.5%)で、事実や自分の考えなどを整理して書くことに課題があった。
---	--

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標（何を、どの程度達成するか）	達成のための具体的取組（どのようにして）	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 A「知識・技能」の向上 B「思考力・判断力・表現力」の向上	A①授業で演習する際に選択肢を準備する。 低学力層：教師との演習、問題の精選 他の生徒：個別学習、ペア学習、発展問題の準備 A②月2回、個別指導を実施する。 B③授業で演習する資料の読み取り、記述などの問題の解答形式に選択肢を準備する。 例)「穴埋め」「全記述」「並び替え」 ※1人1回の実践レポートの提出	①③各教科年間最低1回 ②毎月2回	①低学力層生徒の期末試験(指定問題)の正答率 80% ③全生徒の期末試験(指定問題)の正答率 80% ※5教科で実施。
【学級・学習集団づくり】 C安心できる居場所づくり	①個別面談を充実させる。学期1回の学年担任による全員個別面談と、年度始めのカウンセラーによる全員個別面談の実施。 ②教員を含めた学級の良好な人間関係の形成のための、グループエンカウンターの実施。 例)スゴロクトーク等のエクササイズ ③生徒会を中心とした生徒会活動の充実。 ・年間1回以上の生徒会主催の行事を実施。学校目標や生徒会目標を共有し、共に同じ目標に向かって学校生活を送ろうとする学校風土をつくる。 ・学校行事(運動会・文化祭)において、生徒会が先頭に立ち、リーダーを中心とした集団づくりを行う。	①5月、10月、2月に学年担任による個別面談。6～7月にかけて、カウンセラーによる個別面談を行う。 ②7月、9月、11月、1月、 ③5月、3月・・・生徒会主催行事 5月・・・テルテル杯 6月・・・運動会 10月・・・文化祭 12月・・・ウィンターハイ	①QU・学校評価アンケート「クラスの中で存在感があると思う」70%以上。 ②QU・学校評価アンケート「学校内に悩みを相談できる先生がいる」70%以上。 ③各行事を終えて実施する振り返りの中で、充実した活動になったか、という項目で、肯定的評価90%以上。

3 令和6年度について

①調査から明らかになった課題

【学力調査について】 (NRTをうけて) ●数学：1年…「式」(53.3%)特に「分数の乗除法の性質」(37%)、2年…「文字と式」(40.2%)特に「分数÷分数」(50%)、「不等式に表す」(36%)、3年…「場合の数に基づいた確率」(43.6%)特に「玉を取り出す確率」(19%)に課題があった。 ●英語：1年…「自分に関する英語を書く」(13.3%)特に「見たい競技、内容、綴りと字間」(0%)、2年…「適切な表現を用いて英語を書く」(27.3%)特に「英作文・過去形」(5%)、3年…「適切な表現を用いて英語を書く」(41.9%)特に「適切な表現・比較級」(29%)に課題があった。 【共通】 数学：各単元の基礎的な事項 英語：基本的な英文を正確に書くこと (全国学力・学習状況調査をうけて) ●国語：話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する問題(25.8%、全国比-18.2%)で意見と根拠など情報と情報との関係を読み取れない生徒が、他の問題と比較して多くいた。 ●数学：数学では、回転移動について理解しているかどうかをみる問題で(58.1%、全国比－10.3%)回転移動を理解できていない生徒が多くいた。また、一次関数のグラフの利用(6.5%、全国比－10.5%)では、無回答の生徒が多くいた。(無解答率32.3%、全国比+15.9%)	【学級集団について】 (1回目のQ-Uをうけて) ●1年生は、学級生活不満足群が複数名いる。(6/31名) ●2年生は、侵害行為認知群(前回10%→今回13%)と学級生活不満足群(前回19%→今回22%)が前回検査より数値が上がっている。 ●3年生は、非承認群(前回0%→今回6%)と学級生活不満足群(前回10%→今回15%)が前回検査より数値が上がっている。 【共通】 個に応じた対応が必要な生徒が各学級に複数名いる。 (2回目のQ-Uをうけて) ●1年生は、侵害行為認知群(前回7%→今回17%)と学級生活不満足群(前回21%→今回24%)が前回検査より数値が上がっている。 ●2年生は、学級生活不満足群(前回22%→今回26%)が前回検査より数値が上がっている。 ●3年生は、侵害行為認知群(前回6%→今回13%)と学級生活不満足群(前回13%→今回16%)が前回検査より数値が上がっている。 【共通】 個に応じた対応が必要な生徒が各学級に複数名いる。
---	---

②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

重点取組上記課題を踏まえたもの	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期
【学力向上について】 ・学習内容を整理すること ・英文法の基礎的な知識・技能の定着 ・四則計算の確実な定着	①R80の実施 ②低学力層生徒を対象とした個別指導の実施(月1回) ③英文法の基礎的な知識・技能の定着を意識した課題の実施(週1回、1・2学年) ④授業の中に四則計算の学び直しの時間を導入する(毎時間、1・2学年)	○1・2学年の英語の検証テスト平均正答率60%以上(2・3学期末) ○1・2学年の数学の学年末試験(指定問題)の平均正答率75%
【学級・学習集団づくりについて】 ・安心できる居場所づくり	①個別面談を充実させる。学期1回の学年担任による全員個別面談を行う。 ②スクールカウンセラーによる全員個別面談の実施。 ③生徒会を中心とした生徒会活動の充実。	○各学期ごと、年間3回の個別面談を100%実施する。 ○困りごとや悩み事を相談できる体制をつくと共に、教員間で連携を行う。月2回以上の生徒支援委員会の実施。 ○学期に1回の生徒会活動を取り入れ、事後アンケートで肯定的評価90%以上。